慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	2023年前期大会報告要旨
Sub Title	2023年度 "满洲记忆" 研究会前期大会报告提要 Summary report
Author	森川, 麗華
Publisher	「満洲の記憶」研究会
Publication year	2023
Jtitle	満洲の記憶 No.9 (2023. 12) ,p.132- 133
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32003001-20231200-0132

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2023 年前期大会報告要旨

森川麗華

本報告「戦後日本における「中国残留婦人」への眼差し―ジェンダー・ナショナリズムの視点から読み解く新聞表象を中心に」は、戦後の日本社会において、「中国残留婦人」（以下、残留婦人）がどのように眼差されてきたのかを、ジェンダーとナショナリズムが交差する視点から資料やオーラルヒストリー、また『朝日新聞』における報道を分析することで、明らかにすることを目指したものである。

残留婦人とは、主に 1930 年代の帝国日本の国策によって「満洲国」へ渡り、日本敗戦後は中国「残留」を余儀なくされた「中国残留日本人」のうち、1945 年当時 13 歳以上の女性たちを指す。その多くは敗戦直後のソ連兵による性暴力から逃れるためや、食糧との交換として現地の中国人男性と結婚し、出産した。13 歳という年齢の規定は女性にだけ設けられ、日本政府の帰国援護政策においても男女で異なる対応が取られた。この背景には、日中の男性中心主義的な法制度や、価値観が強く影響していると考えられる。

これまでの残留婦人に関する研究では、残留婦人のナショナル・アイデンティティを敗戦前後のオーラルヒストリーから分析するものや、残留日本人のメディア表象が「被害者」としてのモデル・ストーリーを作り出したと指摘するものなど、その表層面に着目した研究が主流を占める一方、ジェンダーの視点で彼女たちの置かれた状況やその構造を分析するものはわずかにしか存在しない。そのため、彼女たちの敗戦時における中国人男性との結婚や、永住帰国する際の制度的困難などが、その背景にあるジェンダー不均衡な社会構造を無視したままに論じられてきたという問題がある。

以上を踏まえ、本報告では、ジェンダーの視点から彼女たちが生まれた歴史的

背景を史料や文献、オーラルヒストリーから分析することで、その構造的差別を明示した。また、465 件の新聞記事から戦後日本社会の彼女たちへの眼差しを考察した。そこからは、残留婦人が最も注目を集めた 1993 年の「強行帰国」という出来事が契機となってその表象に変化が見られたこと、そして残留婦人が生まれた社会の構造的差別の存在と、戦後の日本社会において彼女たちの経験が自己責任化されていった過程を明らかにした。

今後の展開としては、これまで報告者が行ってきた、残留婦人というジェンダー不均衡な分類それ自体を疑問視する視角からの研究をさらに一歩進め、たとえば戦後中国で生まれ育ち、一度も日本に来たことがないような「中国残留日本人」の家族らが日本へ移住することを、あえて日本への「帰国（者）」と呼ぶような、現在まで続く社会・政治的な眼差しや態度を問い直すことへと、繋げていきたい。